

## レディーミクストコンクリート配合計画書

No. \_\_\_\_\_

神石生コンクリート協同組合 殿

2025年 4月 1日

日本産業規格表示認証工場  
 神石生コンクリート協同組合  
 広島県神石郡神石高原町油木甲 2 8 8 5 番地の 5  
 TEL(0847) 82-0066 FAX(0847) 82-2974  
 配合計画者名 田村 哲郎

工 事 名 称																											
所 在 地																											
納 入 予 定 時 期																											
本配合の適用期間		4月11日～7月10日・9月1日～11月10日は標準配合。左記以外の期間は備考欄に記述(標準配合)																									
コンクリートの打込み箇所																											
配 合 の 設 計 条 件																											
呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ <sup>°</sup> 又はスランプフロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号																						
	普通	24	8	40	BB																						
指定事項 (必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載																						
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB																						
指定事項 (任意)	骨材のアルカリ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	- kg/m <sup>3</sup>																						
	舗装コンクリートの強度試験方法	曲げ強度・圧縮強度		コンクリートの温度	- °C																						
	水の種類	使用材料欄に記載		水セメント比及び/又は水結合材比の目標値の上限	60%																						
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		単位水量の目標値の上限	- kg/m <sup>3</sup>																						
	塩化物含有量	- kg/m <sup>3</sup> 以下		単位外量の目標値の下限又は目標値の上限	- kg/m <sup>3</sup>																						
	呼び強度を保証する材齢	- 日		流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	- cm																						
使 用 材 料																											
セメント	生産者名	太平洋セメント株式会社			密度 g/cm <sup>3</sup>	3.04	Na <sub>2</sub> O eq %	-																			
混和材①	製品名	-	種類	-	密度 g/cm <sup>3</sup>	-	Na <sub>2</sub> O eq %	-																			
混和材②	製品名	-	種類	-	密度 g/cm <sup>3</sup>	-	Na <sub>2</sub> O eq %	-																			
骨材	No.	種類	産地又は品名	アルカリ反応性による区分	粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm <sup>3</sup>	絶乾表乾	微粒分量の範囲%																		
				試験方法																							
細骨材	①	加工砂	加工砂 島根県仁多郡奥出雲産	A	モルタルバー法	5	2.75	-	2.56	3.0以下																	
				②							砕砂	砕砂 岡山県新見市足立産	A	化学法	5以下	2.70	-	2.65	3.0±2.0								
粗骨材	③	-	-	-	-	-	-	-	-	-			-							-							
粗骨材	①	砕石4020	砕石 神石高原町産 4020	A	モルタルバー法	40～20	7.95	-	2.73	0.5±0.5																	
				②							砕石2010	砕石 神石高原町産 2010	A	モルタルバー法	20～15	6.95	-	2.73	0.5±0.5								
				③									砕石1505							砕石 神石高原町産 1505	A	モルタルバー法	15～5	6.35	-	2.73	0.5±0.5
				④																	-						
混和剤①	製品名	シーカボゾリス 15L	種類	AE減水剤(標準形I種)				Na <sub>2</sub> O eq %	0.9																		
混和剤②	製品名	シーコントロール 202 AER	種類	AE剤I種					2.3																		
混和剤③	製品名	-	種類	-					-																		
細骨材の塩化物量		①0.000%			水の種類	地下水・回収水		目標スラッグ固形分率			-																
回収骨材の使用量		細骨材			粗骨材	-		スラッグ水の使用方法			-																
配 合 表 kg/m <sup>3</sup>																											
セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤																
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③														
275	-	-	157	535	239	-	560	336	221	-	2.29	2.49	-														
水セメント比		57.0%			水結合材比		-%				細骨材率			42.2%													
備考				骨材の質量割合、混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合がある。				骨材混合比(容積混合)		砕砂:砂=30:70 4020:2010:1505=50:30:20																	
修正標準配合として次に示す適用期間の間、混和剤の単位量のみ変更 夏期 7月11日～8月31日 +20% ・ 冬期 11月11日～4月10日 -20%																											

配合計算書

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号 普通	呼び強度	スランブ <sup>°</sup> 又はスランブ <sup>°</sup> フォー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
		24	8	40	BB

指定事項 W/C ≤ 60%

(1) 変動係数(v) 当工場の実績により v = 10 %

(2) 配合強度(m)

$$\alpha_1 = \frac{0.85}{1 - \frac{3.0 \cdot v}{100}} = 1.214 \quad \alpha_2 = \frac{1}{1 - \frac{2.000 \cdot v}{100}} = 1.250$$

$$m = \alpha_2 \times S_L = 1.250 \times 24 = 30.0 \text{ N/mm}^2$$

よって m = 30.0 N/mm<sup>2</sup>

(3) 水セメント比(W/C)  $m = -18.2 + 27.7 \times C/W$   
 $W/C = 27.7 \div (30.0 + 18.2) \times 100 = 57.0 \% \leq \text{【60\% (上限値)】}$   
 $\therefore W/C = 57.0 \%$

(4) 単位水量(W) 当工場の実績により W = 157 kg/m<sup>3</sup>

(5) 単位セメント量(C)  $C = W \div (W/C) \times 100 = 157 \div 57.0 \times 100 = 275 \text{ kg/m}^3$   
 $C_v = C \div \text{密度} = 275 \div 3.04 = 90 \text{ l/m}^3$

(6) 空気量(A)  $A = 4.5 \% \times 1000 = 45 \text{ l/m}^3$

(7) 細骨材率(s/a) 当工場の実績により s/a = 42.2 %

(8) 単位細骨材量(S)  $S_v = (1000 - (W + C_v + A)) \times s/a = 708 \times 42.2 \% = 299 \text{ l/m}^3$   
 $S_{1v} = S_v \times 70.0 \% = 209 \text{ l/m}^3$   $S_1 = S_{1v} \times \text{表乾密度} = 209 \times 2.56 = 535 \text{ kg/m}^3$   
 $S_{2v} = S_v - S_{1v} = 90 \text{ l/m}^3$   $S_2 = S_{2v} \times \text{表乾密度} = 90 \times 2.65 = 239 \text{ kg/m}^3$

(9) 単位粗骨材量(G)  $G_v = 1000 - (W + C_v + S_v + A) = 1000 - 591 = 409 \text{ l/m}^3$   
 $G_{1v} = G_v \times 50.0 \% = 205 \text{ l/m}^3$   $G_1 = G_{1v} \times \text{表乾密度} = 205 \times 2.73 = 560 \text{ kg/m}^3$   
 $G_{2v} = G_v \times 30.0 \% = 123 \text{ l/m}^3$   $G_2 = G_{2v} \times \text{表乾密度} = 123 \times 2.73 = 336 \text{ kg/m}^3$   
 $G_{3v} = G_v - G_{1v} - G_{2v} = 81 \text{ l/m}^3$   $G_3 = G_{3v} \times \text{表乾密度} = 81 \times 2.73 = 221 \text{ kg/m}^3$

(10) 単位混和剤量(Ad)  $Ad_1 = C \times \text{添加率} \times \text{密度} = 275 \times 0.8000 \% \times 1.04 = 2.29 \text{ kg/m}^3$   
 $Ad_2 = 2.49 \text{ kg/m}^3$

配合表 kg/m<sup>3</sup>

セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
275	-	-	157	535	239	-	560	336	221	-	2.29	2.49	-
水セメント比	57.0 %		細骨材率	42.2 %			骨材混合比 (容積混合)	砕砂:砂=30:70 4020:2010:1505=50:30:20					

備考